

## 畜産と金融

畜 産 課

農林漁業基本問題調査会の答申によりますと、10年後には畜産は現在の約3倍に伸び、農業総生産においては、米の40%台に次いで27%を占め、将来の日業農業のにない手とされています。

このように畜産が級数的な伸びを見るためには多額の資本を必要としますが、御承知のとおり農政の方向は、最近従来の補助金行政から、意欲的な資金融資制度へと切り換えられてきています。そこで、畜産に関係のある制度資金について、今一度振り返って見ることにします。

畜産に関係のある制度資金としては、農林漁業金融公庫法に基づく農林漁業金融公庫資金、農業改良資金助成法に基づく農業改良資金と、有畜農家創設特別措置法に基づく家畜導入資金の制度がありますので、事業の項目別に資金の借入条件などについて述べてみますと、

先ず、牧野の改良造成については、公庫資金で10万円以上、事業負担額の8割まで借りられます。

貸付けの相手方は農協、及びその連合会、農業又は畜産を営む者ですが、補助のあるものはその残額について融資が受けられ、利息は6分5厘で、5年据置、15年以内に償還します。非補助のものは、利息は3分5厘に軽減されることになっており、3年据置、償還期限は同じく15年以内です。

公庫では10万円以下の金は借りられません、農業改良資金では事業費が12万5千円以下のものについて、8割まで貸付され、利息は5分、1年据置、10年以内に償還となっています。また改良資金では、飼料畑造成資金として利息8分1厘、1年据置、10年償還の制度があります。

2番目に、畜産関係の共同利用のための施設、つまり、酪農、孵卵育雛、家畜人工授精、羊毛加工、食肉加工、家畜市場、飼料製造、家畜診療などの施設設置に対して、20万円、事業費の8割までについて公庫から貸付けがあります。利息は7分5厘、2年据置、償還期限は15年以内ですが、貸付の相

手方は農協とその連合会となっており、飼料製造施設は農業共同組合連合会、家畜診療施設は、農業共済組合とその連合会だけが貸付の対象となっています。

3番目は、農林大臣の指定した一般の畜産施設ですが、畜舎、サイロとカッター、堆肥舎について公庫から20万円まで特定の場合を除き事業費の6割が貸付されますが、利息は7分5厘、2年据置、10年償還となっています。ただし、この場合の貸付けの相手は、開拓者、集約酪農地域内の乳牛の飼育者、自作農創設資金の貸付けを受けた者、寒冷地貸付牛の受託者などに限定されていますので、公庫資金の借入のできない一般の乳牛や和牛などの飼育者には、改良資金の貸付けがあります。

即ち、標準事業費は牛、豚の畜舎は20万円、堆肥舎は7万2千円から18万円また、サイロ、小型1万5千円、大型9万円それぞれ標準事業費の8割まで融資が受けられます。利息は8分1厘、1年据置、7年償還となっています。なお、鶏などを対象にした中小家畜舎は、標準事業費20万円。飼料用の動力カッターは3万5千円から7万円それぞれ8割までが、利息1割、1年据置、5年償還で借受けられます。

改良資金の方が多少利率も高く、融資期間が短いようですが、鶏舎資金として7分5厘の低利の制度が目下検討されています。

4番目に、公庫資金で小団地開発整備事業や、農山漁村建設総合事業の関係で、牧野の改良造成、共同利用施設などに融資があり、又災害復旧の関係では、全般の項目にわたって、一般のものより低利で長期融資の制度があります。

なお、改良資金では無利子で標準事業費の7割を貸付けする技術導入資金がありますが、畜産の関係では、寒冷地貸付け牛の受託者が、飼料作物を栽培するための資材購入資金として、少々の資金が2年間貸付けされることになっていますが、本年度から

## 岡山畜産便り 1960.07

新たにトレンチサイロ促進と、駄鶏淘汰促進としてのケージの購入資金が追加されます。

最後に有畜農家特別措置法に基づく家畜導入資金の制度ですが、これは昭和 27 年度から始められ昨年度までに、乳牛、和牛などが 1 万 4 千頭を導入され、総融資額は 4 億 6 千 5 百万円に上り、北海道に次いで利用率が高く、皆様に、なじみの深いものですが、簡単に説明しますと、対象家畜は乳牛、和牛及び、ジャージー種牛とされて、1 農協単位 10 頭以上を導入することになっています。

融資額は、家畜代金の 7 割以内で、ほぼ乳牛で 6 万 5 千円、和牛は 3 万 2 千円、ジャージー種牛は 3 万 5 千円が融資されます。

利息は 7 分 5 厘、1 年据置乳牛は 4 ヶ年償還、和牛は 5 ヶ年償還となっています。

次に昭和 34 年度における資金融資実績を見ますと、公庫資金では、牧野改良 1 件、畜舎堆肥舎などが 15 件、小団地及び農山漁村建設関係の牧野改良 2 件で、合計 5,619 千円。

改良資金では、牧野改良 9 件、畜舎堆肥舎などが 161 件、中小家畜舎 40 件、飼料用動力カッター 11 件で、合計 18,405 千円。

家畜導入資金では、乳牛 2,352 頭、和牛 214 頭、ジャージー種牛 284 頭で、合計 130,393 千円で、家畜導入資金は 100%の消化ですが、公庫資金、改良資金共 50%にも満たない状況でした。

更に本年度の資金融資計画を見ますと、公庫資金では昨年度より 20~50%増の大幅な融資枠があり、改良資金では、新規事業として、トレンチサイロ促進 200 件、及び駄鶏淘汰促進 3,400 件を加え、牧野の改良造成 60 件、飼料畑造成 70 件、堆肥舎、畜舎、改良豚舎、及びサイロが 550 件、中小家畜舎 100 件、飼料用動力カッター 20 台と、5 千万円を計上しています。又家畜導入資金では、乳牛 2,500 頭、和牛 1,000 頭、ジャージー種牛 200 頭で、1 億 8 千 8 百万円を見込んでおります。

以上畜産金融の概略を述べましたが、大いに将来を期待れる畜産の、飛躍的な発展のために十分にこれらの資本を活用願いたいと思います。

(森谷昇一技師)

## 県畜産会の本年度の実施事業

県畜産会が行なっている畜産技術経営診断事業の本年度の事業推進について協議するため去る 5 月 30 日岡山市で、岡山大学、県、関係団体等の学歴経験者で構成されている推進委員が出席して委員会が開催された。

そして今年度の県畜産会の事業として次のとおり実施することになった。

1. 畜産技術経営診断事業の実施地区は、乳牛 47 地区、和牛肥育 8 地区、養鶏 13 地区計 76 地区とし、本年度も畜産経営技術共励会を開催するとともに、改良組合の育成に努めるほか、パンフレット、スライドなどによる広報活動をさらに積極的に行なう。
2. 岡山県畜産経営共進会を開催する。
3. 岡山県畜産経営技術発表大会を開催する。
4. 畜産技術講習会を開催する。
5. 地区畜産技術者連絡協議会を開催する。

このほか、畜産に関する普及宣伝、牧草種子の配布、畜産に関する教育、情報活動、表彰並びに褒賞、畜産団体の整備統合などの活動にも努める。